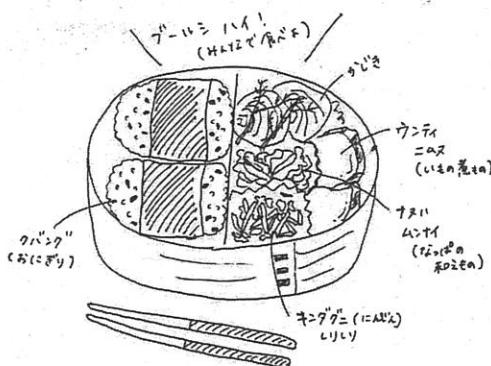


八重山日報



Let's 健康おきなわ21

リレーエッセイ ②

「島の食に笑顔を…」

与那国町長寿福祉課 与那覇ひとみ

「ちよつと見てみてよ!み
んなのお弁当すごいんだよ

!」と保育園の先生の嬉しそうな笑顔に連れられ、覗いてみると、「わあーおっ!」と思わず叫んでしまった私。

与那国町では公立保育所が2か所あり、1か所はへき地保育所のため、昼食はお弁当参。そのお弁当の内容に変化が現れて

きたのです。

国が食育基本法を定めたのが平成17年。

各市町村でも食育推進計画が策定され、全国の策定率平均が78・1%である一方、沖縄県は22%と低い。(平成29年3月末現在)

そんな中与那国町も食育推進計画を策定す

る事に。平成28年度は実態把握のため意識調査を実施し、その結果を基に平成29年度で策定といつ流れになりました。

「策定」をするだけではなく、「推進」するという大きな課題。事務職である私と、管理栄養士さんとの二人三脚がスタートしました。

意識調査で大きく浮き上がってきたのが地産地消の問題です。住民さんは島で採れた野菜が食べたいと思っていても、需要と供給のバランスが悪いという状況。商店で売られている野菜の殆どが島外からだ。店頭に野菜があるのは、船が入った時だけといふことも。

しかし、地元でも頑張っている農家さんはいるのです!その農家さんやJA野菜生産部会さんに協力を頂き、食育の推進が動き出しました。

「6月に農家のオジーから、保育園児に野菜のプレゼントしませんか?」という声掛けに快諾頂くものも、野菜も生き物です。「なんか、4月に野菜が採れそうだ!」つとこうことは、収穫がはやまる?!行政、教育現場、農家、JA(企業)のやり取りの嵐です。早速、収穫体験が決定しました。そんな体験や、野菜の詰め合わせを家に持ち帰り、家族で料理をし、一緒に食べる。当たり前の事ですが、自分が持ち帰った野菜、自分で収穫した野菜は、どれほど嬉しい、その子供たちを見る親御さんはどう感じるのだろうか?

その結果がお弁当に現れていたのです。色彩が良くなつたお弁当、好き嫌いが減った子供達が。

地道ですが、島の食の未来に笑顔が見えたり瞬間によつて思えました。



「Let's 健康おきなわ21」は、八重山地区健康おきなわ21推進会議の構成機関・団体が『沖縄県の長寿復活に関する記事』を投稿しています。

八重山日報社

平成30年3月9日(金)